



第3回仙台市子ども読書活動推進計画（第四次）検討委員会議事録

- 日 時 令和5年10月13日（金）14:00～15:30
- 場 所 仙台市役所上杉分庁舎2階第1会議室
- 出席委員 猪野力委員，児玉忠委員，齋藤千里委員，佐藤のりみ委員，佐藤眞弓委員，鈴木知子委員，多田知子委員，渡邊千恵子委員
- 事務局職員 柴田生涯学習部長，都丸こども家庭保健課長，田中教育指導課長，田村生涯学習課長，千葉市民図書館副館長，三澤生涯学習課企画係長，市民図書館奉仕整理係 浅野主査，生涯学習課企画係 松澤主事

○会議の概要

- 1 開会
- 2 挨拶（渡邊委員長）
- 3 子ども読書活動推進計画（第四次）中間案について

子ども読書活動推進計画（第四次）の中間案について，資料に基づき事務局から説明し，質疑応答や意見交換を行った。

- 渡邊委員長 ただいまの説明について，ご意見等をいただきたい。
まずは，計画のタイトルを「仙台市子ども読書活動推進計画（第四次）」から，西暦を用いた「仙台市子ども読書活動推進計画2024」とすることについて提案があったが，いかがか。
西暦の方が，いつから始まったのかわかりやすくよいと思う。タイトルについては皆さんよろしいか。
- 各委員 了承。
- 渡邊委員長 次に，子どもたちにアンケートをとり，実際の取組に生かしていくということについて，学校現場として気になる点や希望等はあるか。全ての小中学校を対象とするわけではないようだが。
- 生涯学習課 学校図書館の運営に積極的に取り組む学校をモデル校として認定しており，まずはモデル校にご協力をお願いしたいと考えている。
- 各委員 異論等なし，了承。
- 渡邊委員長 それでは，資料2の中間案について，前半と後半に分けてご意見等をいただきたい。まずは，1ページから16ページ，「はじめに」から「第3章 『仙台市子

ども読書活動推進計画（第三次）』の取組状況と課題」について、お気づきの点があれば伺いたい。

前回骨子案について協議いただいた際は、前半部分に関して特段のご意見はなかったように思うが、今回変わった部分もある。例えば15ページに第三次計画の課題について加筆されている。学校段階が上がるにつれて読書から遠ざかる傾向が見られること、今後はより多くの子どもや関係者に情報を届けられるよう、広報の工夫等の見直しを行っていくといったことが書かれている。

児玉副委員長 全国的に共通した課題が仙台市にもあり、それを本計画により改善していこうということが明確に、根拠を挙げて示されているので、この内容でよいと思う。

渡邊委員長 他の委員の皆さんはいかがか。

各委員 了承。

渡邊委員長 それでは、後半部分の17ページから29ページ、「第4章 『仙台市子ども読書活動推進計画（第四次）』の目的と基本的方針」から「第5章 子ども読書活動の推進のための取組」についてご意見等をいただきたい。

17ページの「1 計画の目的」の文言については、前回の会議でさまざまなお意見をいただいた。ご意見を踏まえ事務局で調整し、ずっと入ってくるような表現に直していただけたかと思う。目的についてはこの表現でよろしいか。

各委員 了承。

渡邊委員長 その他、修正等でなくとも、改めてご覧いただきお気づきになった点やご感想等があれば伺いたい。

児玉副委員長 今回の計画では、数値目標を設定しないということが一つの大きなポイントになると思われる。時世的に数値目標を立てないということが認められるものか心配もしつつ、しかし数値では測れないことの方が、この計画における取組にはむしろ多い。そういった意味では、あくまでも参考値として、前年はこうだった、今年はこうであるというような形で示して構わないと考える。このことの是非について皆さんのご意見があれば伺いたい。

また、前回第5章に関して、重点的な取組が個々の取組とどう対応しているのか明示した方がよいのではないかと指摘した。今回の中間案で細かく反映していただいております、とてもよいと思う。一方で、作る段階ではこのように着地したが、これを見る側に立つと、重点的な取組が一覧できるとよいと思う。現在4か

所に記載されている重点的な取組を、最終ページで一覧にしてはどうか。例えば各学校においてそれを索引のように使い、自校ではこれを重点にしたいと思ったときに、どのページに詳細が載っているか辿れるようにするといった見せ方の工夫があればよいと思う。

また、前回の会議で出た意見を踏まえ、目的の文言を「子どもが他者と関わりながら…」という表現に修正いただいた。我々は「他者」とした意図をよくわかっているが、一般の方はどう捉えるだろうか。このような、やや抽象度が高い表現や、一般にはなじみのない難解な言葉については、脚注をつけてはどうか。そのような見せ方をすると親切かなと思う。

中身については丁寧に検討され、議論をしっかり踏まえた修正もしていただいていると思われるため、特段の異論はない。

渡邊委員長

重点的な取組の一覧については、札幌市の計画でもそういった表があった。仙台市でもさまざまな部署において横断的に取り組まれ、それに関する一覧表のようなものはある程度作っているようなので、一般の方に見せる形に直すということはすぐにできるのではないか。

見せ方に関していえば、本計画はある程度の厚さがあり、積極的に全て読もうとする方は少ないと思う。A4用紙1枚程度で子ども向け、一般市民向け、あるいは子育てをしている保護者向けに、「仙台市はこういったことに力を入れている、こういったところにリソースがあるので来てください」というメッセージを発信することが大事だと考える。

児玉副委員長

なるほど。受け手に応じたA41枚のポンチ絵があるとよい。

渡邊委員長

情報発信が大事だ。小学校高学年くらいになると「YA(ヤングアダルト)」に入ってくると思う。自分で情報を見つけ、使いこなす力が生まれてくる頃かと思う。

他に何か思いついたことや改善点等があれば伺いたい。

佐藤真弓委員

19ページの「1(1)①乳幼児が本に触れるきっかけづくり」について、絵本のある子育てというのはやはり読書活動の根底となるように思う。絵本は子どもにとって心の栄養になると思いがちだが、子どもだけではなく、子育て中の親にとっても、穏やかに我が子に読み聞かせをする時間を与えるものであり、心の栄養になっているものと思う。19ページでは3～4か月児育児教室でブックリストを配布するとあるが、6～7か月、8～9か月の健診や、月齢が上がるたびに配布する等、機会を多くしてもよいのではないか。3～4か月児はまだ横抱きの赤ちゃんで、親にブックリストを渡しても、まだ絵本を見る時期ではないと思われるのではないか。

- 生涯学習部 3～4か月児育児教室で区役所に来ていただく際に、基本的に全保護者にブックリストを渡している。他の月齢だと集団健診ではなかったり、予防接種等の集団で子どもたちの様子を見る機会もコロナ禍の影響でなくなってきたりと、タイミングが難しいところがある。もう少し機会を増やせないか関係部署と相談したい。
- 渡邊委員長 まさに時代が変わっている。昔は4か月健診があり、次は1歳、1歳6か月か。集団健診もあったと思う。
- 佐藤真弓委員 2歳半健診等もある。予算も関係してくるかもしれないが、都度、目に触れる機会があればよいと思う。
- 渡邊委員長 文言についてもご確認いただきたい。3～4か月は「育児教室」なのか。
- 生涯学習課 育児教室では成長状況の確認等を行う。健診として区役所に一齐に集まっていただくタイミングは、1歳6か月が最初になっている。
- こども家庭保健課 区役所に集まっていただく機会としては、3～4か月児育児教室と、いわゆる幼児健診がある。一番早い幼児健診は1歳6か月である。1歳未満の乳児健診は、2か月、4～5か月、8～9か月の3回あるが、区役所ではなく、仙台市内の医療機関に個別に行っていただくことになっている。行政から市民に直接、趣旨も説明しながら配布できるタイミングで一番早いのが3～4か月児育児教室となる。
- 渡邊委員長 そうであれば、小児科にちらし等を置いてもらうことはできないか。
- 齋藤委員 図書館で発行している「赤ちゃんと楽しむはじめての絵本」というブックリストはいろんなところに置いてあると思うが、育児教室で配布するのは別のものなのか。
- 市民図書館 育児教室で配布するものも、図書館で作成している。
- 齋藤委員 そうであれば、もちろん各図書館にも置いてあるし、医療機関等にあってもよいのではないか。かわいらしい表紙なので、親も手にとりやすいと思う。
- 渡邊委員長 関係部署等で協力していただけるとありがたい。
- 児玉副委員長 置いてほしいが、置きなさいと強くはいえない。そういう話だと思う。

- 生涯学習部 3～4か月児育児教室での配布は来ていただいた方全員に受け取ってもらう形だが、さまざまな施設に配架し、ほしい方に手にとっていただくという形もとれるのではないかと思うので、検討していきたい。
- 渡邊委員長 佐藤委員がおっしゃった「絵本のある子育て」という言葉に心ひかれるものがあった。どこかで使ってほしい。
他にはいかがか。
- 佐藤真弓委員 保育の現場では、子どもたちが夢中になれる本、心に残る本を読み聞かせたいという思いで読み聞かせを行っているが、どこかではもしかしたら、子どもたちを静かにさせるためのきっかけとして読み聞かせが使われている場面があるのではないか。保育者等、教育現場の職員が、「絵本は心の栄養になるから、大事に選びたいよね」、「この時期にはこういう絵本を聞いてほしいよね」といった話ができる勉強会のようなものがあればよいと思った。
- 渡邊委員長 計画に、子どもの読書に関わる人の人材育成について記載した部分があるのではないか。
- 市民図書館 21ページの(4)③に、読み聞かせボランティアを養成する講座について記載している。
- 渡邊委員長 ボランティアではなく、幼児教育に携わる方や、小中学校の教員等、スペシャリストの学びについてはどうだろうか。資格や免許をとる際に学んでいるだろうとは思うものの。
- 児玉副委員長 小中学校の教員の場合は教育センターで研修を受けることになっているはずだが、保育士が研修等を受ける体制についてはどうか。
- 佐藤のりみ委員 市の保育士に関しては、保育所を通していろんな研修が行われているものと思う。計画では23ページの(1)④に保育士の研修について記載されている。
児童館では、子どもたちを静かにさせるために読み聞かせを行う場合がある。
- 佐藤真弓委員 場面転換の時に道具になってしまう部分もある。
- 児玉副委員長 とはいえ、それも大事だと思う。朝読書も、授業で頭を使う前に、気持ちを落ち着かせるために活用するというニーズがある。そういった手段としての読み聞かせに偏るようであればよくないかもしれないが。

鈴木委員 計画の冊子になかなか目を通せないのではないかという話があったが、学校現場でもそうだと思う。A4 1枚程度で教員向けの概要版があると、図書担当の教員が他の教員にかいつまんで説明しやすいし、各校における取組について、より力を入れていきたいという話もしやすいと思う。学校図書館に飾るということも考えられる。子ども向けのものであれば、見る子は見ると思う。

また、先ほど保育士の研修について話題になったが、学校現場においては教育研究会の図書館部会や、研修等について教育委員会から発信できればよいのではないか。

渡邊委員長 教職員向けも含めて、それぞれに対するメッセージを発信することが、仙台市として本気で計画を推進していく姿勢を見せることになると思われる。第三次計画期間における課題のフォローにもなるため、ぜひ実施してほしい。

多田委員 中学生の日々を見ていると、読書をする生徒も固定化しているように思われる。中学生向けに、二次元コードを読み込むとおすすめの本が表示される等の仕組みがあれば、本に親しむきっかけになるのではないか。スマートフォンの時代なので、小さなカードやA4の概要版に二次元コードを載せて読み取ってもらうのもよいと思う。ただの紙だと、見るだけで終わってしまうのではないか。

二次元コードにリンクされたおすすめの本の紹介をきっかけに、本屋や図書館に行ってみようという気になるかもしれない。紙の本も読ませたいが、子どもたちは手っ取り早い方法を望むので、電子書籍にリンクできる仕組みがあればよいと思う。著作権等の問題があるか。

渡邊委員長 市民図書館の電子図書館につながっていて、電子書籍を借りられるというのはどうか。ただの紙より、二次元コードが掲載されたカードを配布するのはよいかもしれない。筆箱にも入れられる。

スマートフォンは学校には持ってこられないのか。

多田委員 基本的には禁止だが、許可があれば持ってこられる。

児玉副委員長 一人1台の端末を使って読み込むこともできるか。

多田委員 できる。

生涯学習部 例えば、二次元コードを読み込むと、図書館のおすすめの本を紹介したページにつながるといったようなことはできると思う。概要版を作る際に検討したいと思う。

- 渡邊委員長 やはり、距離をぐっと縮めていかないといけないと思う。現場からのよいアイデアをいただいた。
- 猪野委員 箇条書きではないので、一見して読むのが大変だなという印象がある。
中学生は、親も受験等でカツカツしていて、家庭で読書活動を推進していくということがなかなか難しいと思う。受験でプラスになるというような動機付けがあれば別だが。そのため、小さい子に向けた取組に力を入れて、PTAも関わっていくという形がよいのではないか。
- 渡邊委員長 本を読む子どもと読まない子どもに、はっきりと分かれてしまっているのが現状だと思う。ただ、自分の子どもは本を読むようになって成績が上がったと話していた。
- 猪野委員 読むスピードが上がると、テストの問題文を早く読めるようになり、成績が上がるのではないか。
- 渡邊委員長 共通テストも随分変わってきて、読解力がないと解けないようになってきたと思う。
- 児玉副委員長 以前は一つのテキストを詳しく読み込む力が求められたが、現在は複数のテキストを関連付けて読む力が問われる。文章量が多くなり、速読力と、関連付ける力が必要になっている。そういう意味では、学習の中身が変わってきている。昔の「読解力」は、正しく詳しく読むことを指していた。新しい考え方では、関連付けて課題解決する力が読解力ということになっていると思う。たくさん読める、読んでいる子というのは、今求められる読解力が高くなる傾向にあるので、教科の指導にも少しずつ改善が求められている。
- 猪野委員 そういったことが示されると、親の動機につながるかもしれない。
- 齋藤委員 ちょうど昨日、図書館で行っている乳児向けの読み聞かせボランティアの養成講座に行ってきたところだが、幼児と乳児で読み方が違い、勉強になった。信頼する人から一対一で、目を見て本を読んでもらったり、わらべうたを歌ってもらったりすることが、赤ちゃんにとってとても大事だという話があった。そういった触れ合いから始まり、読み聞かせから読書へ、年齢に応じて移行していくのではないか。
ブックトークボランティアとしては小中学生に向けて活動しているが、仕事柄、乳児から中学生くらいまでの子どもたちを見ており、本を読む子と読まない子の二極化は本当に著しいと感じる。何の本を紹介しても反応しない子もいれ

ば、ちょっとしたことで食いついてくる子もいる。ブックトークだと大体3冊の本を15分で紹介しているが、文字が多い本を好まない子に向けて、写真の本だったらよいかもしれない等、クラスで数十人いる中で、できれば一人ひとりが本に食らいついていけるようにシナリオを作っている。

本来は赤ちゃんの頃に、家の人向き合って読み聞かせをすることが大事だと思うものの、現在の状況ではそれが難しい。例えば、子どもが2歳になる頃まではお母さんが児童館まで連れてきたり、そこで本を借りたりといった姿が見られるが、産休・育休から復帰すると、それが中断されてしまうことが多い。親子で本に触れる期間が短く残念に思う。しかし、時世的に仕方のないことだとすれば、それを補っていけるように取り組んでいかなければいけないと思う。本計画では家庭、地域、学校、図書館でのさまざまな取組が網羅されているので、これを本当に皆が理解して取り組んでいければ、読書活動が推進されていくのではないかと感じた。あまり本を読んでいない子でも、ブックトークがきっかけで読むようになる等、子どもの読書に関わる一人ひとりの大人が、それぞれの場で自分のできる関わり方をしていくということが大切なのではないかと感じた。

渡邊委員長

参考までお伺いしたいが、齋藤委員の感覚としては、男性の関与はどの程度なのか。

齋藤委員

ボランティアに関していえば、男性は圧倒的に少ない。退職された方で、やっている方はいらっしゃる。

児童館では、パパが子どもを連れてきて、ずっと遊んでいるという家族が以前より増えている。パパが本を読んでいることもあり、我々の時代よりは、男性が育児に関わるのが圧倒的に増えていると思う。行事に来るのはやはりママが多く、まだ母親中心の傾向が見られるが、家の中で本を読んでもくれるパパは以前より増えているのではないか。

渡邊委員長

一方で、お母さんが仕事をするようになったら時間がなく、本を読めなくなってしまう場合もあるとのことだった。同じ家庭に大人が二人いるのに、どちらか一方しか機能していない場合があるのならば、意識改革が必要ではないかと思う。自分は本を読んで育てられたはずなのに、親になったときには、それは自分の仕事ではないと思っているケースがあるのではないか。

猪野委員

我々の親世代では8割、9割が専業主婦だったと思う。その流れでできてしまっているというか、そういうものと思いついてしまっている部分があるのではないかと思う。

渡邊委員長 ポテンシャルがあるという見方もできる。ひとり親の家庭も増えてきているが、両親がいながら、一方しか育児に関わっていない家庭において、双方が関わられるようになれば大きい。

猪野委員 子どものスポーツ等は、お父さんが関わっていることが多い。内容によって、切り分けられている気がする。

佐藤のりみ委員 男性による読み聞かせに関して、児童クラブに入ってきたばかりの女の子が泣いてしまったときに、小学4年生の男の子が読み聞かせをしてくれたことがあった。小学生の頃からそういった体験をしていくとよいのかもしれないと思った。そのような場面を演出していくことも、大人として必要なことなのかもしれない。子育て中の職員から、男性が子育てを手伝うというような時代ではないと、当たり前に行うものだというふうに聞いている。のびすく等でも、パパ向けのイベントがあると思うが、読み聞かせ講座等もできるのではないかと思う。

また、先ほどの二次元コードを活用するアイデアは、小学生でも有効だと感じた。

子どもの視点に立った読書活動の推進という観点でも、おすすめの本や、自分たちが体験したことを発信できる場が作られるとよいと思っている。

また、乳幼児期はやはりとても大切だと感じる。我々は文字を読むことを読書だと考えがちだが、読み聞かせの先生が「舐めることも読書ですよ」とおっしゃっていた。それくらいハードルを下げて、本の扱いも何もわからない乳児が、本と親しむことをもっと緩やかに体験できるとよいのではないか。

中間案について、21ページの(4)③で、「乳児への読み聞かせを行うボランティアを養成します」と記載されているが、これは特に乳児と限定したものか。

齋藤委員 昨日、まさにその講座を受けてきたところだった。0歳児向けということ。

市民図書館 今お話いただいたように、乳児期からの読み聞かせが重要であるといわれているので、特に意識し、ボランティアの養成に取り組んでいる。

また、二次元コードについては、中学生向けの利用案内等に掲載し、図書館のホームページや「YA中高生のページ」にリンクするようにしている。本日のお話を踏まえて、さまざまな場面で活用していきたいと思った。

渡邊委員長 一通りお話を伺った中で、さまざまなヒントがあったかと思うので、ぜひ反映していただきたい。計画そのものについては特に問題はないのではないかとと思われるが、副委員長はいかがか。

児玉副委員長 それぞれの立場からの大事な問題をご指摘いただいたものと思う。改めて、本計画が掲げているものはある意味理念・理想といったものだが、その背景にあるさまざまな課題や実態を受けて作られている。計画だけでは見えにくいそれらについて、今日委員の皆さんに補足していただいたように思う。よりよくしていくために、今度は広報の在り方や伝え方を考える必要がある。先ほどのお父さんによる読み聞かせの問題についても、理念としては乳幼児への読み聞かせというところだが、共働きが普通の社会で、母親をイメージした施策でなく、父親に向けて積極的に働きかけるような重点のかけ方も面白いと思う。無理に押し付けるわけではなく、実態やニーズに応じて、相互の関係を作れたらよいという感想を持った。

渡邊委員長 宮城県は合計特殊出生率が低い。さまざまな条件が重なり合っていて、単純にはいえないが、本計画等を通して、宮城県や仙台市で子育てをしたいと思ってもらえるようになればよいと思う。

皆さんにお話しいただいた内容は、計画に記載されていることの行間にあたる。計画は計画として立てながら、事務局にはその行間の部分を、他部署と連携しながら施策に反映して行ってほしいと考える。あとは、やはり市民への見せ方、届け方を検討していただきたい。子どもたちに向けたかわいらしいものや、教員用の、一見してすぐに内容がわかるようなもの、保育士や男性に向けた心をくすぐるようなキャッチコピー等も必要かと思う。

その他、特にご意見等がないようであれば、この中間案のとおりお認めするという形でまとめたと思うが、いかがか。

各委員 了承。

4 その他

事務局より、中間案に関するパブリックコメントの実施や今後の進め方について説明。

5 閉会

令和 6 年 4 月 1 日

委員長 (署名欄) 渡邊 千恵子

署名委員 (署名欄) 佐藤 のりみ